



どこでも使用可能な小型バッテリー駆動診断システムの開発
～特に活動性結核のスクリーニング法に関して～

結核流行国における
結核診断の現状

ラオスの農村部と診療所の様子



診療施設、医療
機器が不十分

日本での結核診断方法

日本で用いられる結核の診断キット
(T-SPOT TB)



【問題点】

- ・採血、細胞培養機器が必要
- ・診断まで要時間（48時間）
- ・高額（6,300円）

結核流行国で「安価かつ迅速に」
スクリーニングできる診断法の確立
～製品化へ～

尿を用いた診断法の確立

新規バイオマーカーとして
尿中のmiRNAに注目



結核に特異的なmiRNAを同定



産学連携～製品化へ～

診断システムの開発ステップ
※2社、2大学により開発中



診断キットの
デバイス化可能企業
【産学連携希望】

〈問い合わせ先〉

産学知財統括室 佐々木健一 sasakikn@hirakata.kmu.ac.jp

溝上、田中 sangaku@hirakata.kmu.ac.jp

〈研究内容に関して〉

衛生・公衆衛生学講座 准教授 神田 靖士 kandas@hirakata.kmu.ac.jp